

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	22223006	研究期間	平成22年度～平成26年度
研究課題名	アジア・太平洋価値観国際比較調査－文化多様体の統計科学的解析	研究代表者 (所属・職) (平成27年3月現在)	吉野 諒三 (統計数理研究所・データ科学研究系・教授)

【平成25年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
○ A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(意見等)

欧米の物差しで行われてきた価値観調査に関して、特にアジアの文化的特性を踏まえた尺度構成による国際比較調査であり、また過去の「日本人の国民性」調査の縦断的調査として、学術的意義、各国国民の意識啓発的意義は大きい。計画進捗に一部の遅れが見られ、また調査法に一部の変更があったものの、昨年度までに概ね計画を遂行しており、その成果も代表者の所属研究所のWEBサイト等を通じて公開されている。

他方、各国での調査実施手続きが初年度など早い段階で十分詰められていなかったために、標本抽出法が変更されたり、計画に遅れが生じたことの影響が懸念される。また、現時点でアメリカのGSS尺度、WVS尺度、Asian Barometerなどとの差異性が十分読み取れない。さらに、国際分類学会での発表はなされているが、国際的レベルでの発信に課題が残っているように思われ、残る期間内での調査研究が期待される。

【平成27年度 検証結果】

検証結果	当初目標に対し、期待どおりの成果があった。
A	研究進捗評価で指摘された研究計画の一部の遅れはその後の努力により取り戻され、当初計画どおり調査が実施され、総合報告書がまとめられた。また、調査データも統計数理研究所のウェブサイトにおいて公開されている。調査票の翻訳の問題、各国における被調査者の一般的回答傾向の違いなど、調査自体の文化被規定性について興味深い知見も得られた。他方、統計数理研究所のウェブサイトで公開されているデータは世界価値観調査のデータに比べて利用しやすいとは言えない。今後、データベースの利便性の向上、研究成果の国際的な発信に、より積極的に取り組むことが望まれる。